

情報セキュリティアドバイザーボード 第3回 議事要旨

1. 日時：平成25年7月5日(金) 10:00~11:30
2. 場所：三田共用会議所 3階A会議室
3. 出席者：
 - 【構成員】
山口座長、林座長代理、飯塚構成員、岡村構成員、藤沢構成員、小野寺顧問（代理出席 中尾氏）
 - 【オブザーバー】
内閣官房情報セキュリティセンター
 - 【総務省】
吉田政策統括官、渡辺審議官、小笠原情報流通振興課長、山碕情報セキュリティ対策室長、村上情報セキュリティ対策室調査官、平松情報セキュリティ対策室課長補佐
4. 議事要旨：
 - (1) 政府の情報セキュリティ政策の動きについて
政府の情報セキュリティ政策の動向（資料3-1）について、フリーディスカッションが行われた。
主な意見は以下の通り。
 - ・ 外交分野について、現在、国連関連で多くのプロジェクトが動いているため、総務省・経済産業省・外務省の省庁間で連携して対応する必要がある。
 - ・ 現在推進している情報セキュリティ技術の効果的な運用を目指すため、利用者の情報リテラシーについても、産学官が連携して意識啓発を行い、自律的な対応を促す必要がある。
 - ・ 通信事業者側による情報セキュリティ対策の可能性については、利用者の同意の取り方や提供するサービス内容、その料金の有無なども踏まえて、今後も引き続き検討すべき。
 - (2) 総務省の情報セキュリティ政策に関する課題について
総務省の情報セキュリティ政策に関する課題（資料3-2、3-3）について、フリーディスカッションが行われた。
主な意見は以下の通り。
 - ・ 中小企業の情報セキュリティは、非常に重要な問題だが、そもそも企業自身がその必要性を認識していないところが大きな問題。クラウドサービスへの移行促進は、コストダウンにもつながり、インセンティブとなるのではないか。

- ・ 閣議決定等により、全省庁が協力して取り組むフレームワークが必要。
- ・ サプライチェーンにおけるセキュリティの強化は中小企業も関係してくるものであり、ガイドラインの策定等の検討が必要。
- ・ 情報セキュリティのオーケストレーション（コンピュータシステム、ミドルウェア、サービス、設定、管理の自動化）の可能性を念頭に、ISPを最終的な受益者としたときの業界全体の構成の検討が必要。
- ・ サプライチェーンの情報セキュリティについてはシステム監査も有効。ワーキンググループの構成員について、監査法人系の人材の追加を検討する必要がある。
- ・ オーケストレーション的な考え方に関連して、自治体向けクラウドサービス等に情報セキュリティ要件の追加を行えば、IT業界のセキュリティレベルの向上につながるのではないか。

以上